

<報道発表資料>

令和7年4月17日  
京都市文化市民局元離宮二条城事務所

## 将軍の鷹<sup>たか</sup> ～〈大広間〉四の間～

二条城障壁画 展示収蔵館 原画公開 令和7年度春期 シリーズ転調の花鳥

この度、春期原画公開「将軍の鷹 ～〈大広間〉四の間～」の開催について詳細が決まりました。今回は、戦国武将が活躍した桃山時代の絵画様式を受け継ぐ、〈大広間〉四の間の障壁画《松鷹図》を公開します。



〈大広間〉四の間障壁画《松鷹図》南面（部分）

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川家三代将軍、家光（1604-51）の時代、寛永3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野派の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ 転調の花鳥」として、二の丸御殿の各棟の北東にあたる部屋に描かれた障壁画に焦点を当てて紹介します。各棟の北東の部屋の障壁画は、他の部屋と共通しつつも、異なる特徴を持つ花鳥図が描かれています。

【事業概要】

- 会期 令和7年4月24日(木)～6月22日(日)
- 入館時間 午前9時～午後4時30分(閉館は午後4時45分)※二条城の入城受付は、午後4時まで
- 場所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館(〒604-8301 京都府京都市中京区二条城町541番地)  
アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、50 号系統「二条城前」下車すぐ
- 入館料 100円(未就学児無料)※別途入城料が必要。※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方(敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方)、各種障害者手帳等をお持ちの方の入館料は、不要です。
- 公開作品 〈大広間〉四の間障壁画《松鷹図(まつたかず)》(障壁画面数：37面)
- 主催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈大広間〉四の間障壁画《松鷹図》西面(部分)



〈大広間〉四の間障壁画《松鷹図》南面(部分)

<解説と見所について>

二の丸御殿〈大広間〉には、将軍との公式の対面に使われた一の間から三の間、その補助的な役割を果たしたと考えられる四の間があり、これらの部屋の障壁画には、金箔を背景に、松と鳥が描かれます。鳥は、一の間は錦鶏鳥、二の間・三の間は孔雀といった美しい異国の珍鳥が描かれる一方で、今回公開する四の間には、鷹と鷲の勇壮な姿が描かれ、趣が異なります。

鷹は、古代より権力者が好んで行った鷹狩に使われる鳥です。鷹とその獲物は、権力者同士が、主従関係や友好関係を築くための贈答品でもありました。二条城を築城し、江戸幕府の初代将軍となった徳川家康(1543-1616)は、大変な鷹好きで知られ、生涯で千回以上鷹狩を行ったとされます。家康が、慶長17年(1612)に公家の鷹狩を禁じたこ

とは、鷹が持つ、政治的な重要性を認識していたからに他なりません。家康の孫、家光もまた、鷹狩を頻繁に行っていることから、鷹は、将軍にとって、その権力を象徴する重要な鳥とみなされていたと考えられます。

この〈大広間〉四の間障壁画《松鷹図》には、戦国武将に重用された、狩野永徳（1543-90）が確立した桃山絵画のスタイルが受け継がれています。それは、松や鷹等のモチーフを現実よりも大きく描く点、また、モチーフに部分的な重なりを作って、三次元的な奥行きを表す点に、見出すことができます。《松鷹図》の筆者、狩野山楽（1559-1635）は、狩野家宗家と血縁関係や姻戚関係にはありませんでしたが、その師、永徳の桃山様式を、よく継承したとされます。狩野家宗家の血を引く探幽が一の間から三の間を、山楽が四の間の障壁画を担当したという事実は、弟子達の中で、彼が一番の実力者と認められていたことを裏付けています。山楽の実力が遺憾なく発揮された《松鷹図》を、是非御覧ください。

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096